



袋井市海のにぎわい創出ビジョン

海を接点とした多様な主体との出会いから
地域の未来を共に考え、共に創り出す地域活性化プロジェクト

**DORI
BLUE!**

「同笠海岸」を上空から撮影
(写真)諸井駿さん提供【笠原在住】

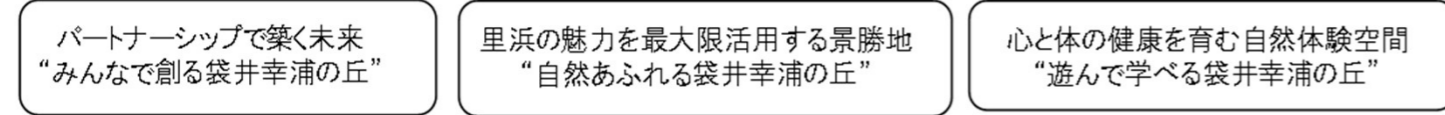
令和5年1月策定
袋井市 企画部企画政策課

I 策定の背景・目的

(策定の背景と目的)

●沿岸部の地域活性化については、旧浅羽町時代から様々な検討が行われてきました。そして、東日本大震災以降、沿岸部で暮らす住民の生命と財産を守るため、平成の命山や防潮堤の整備などに加え、「袋井幸浦の丘プロジェクト」等において保全と利活用による沿岸部の活性化に向けた検討を進めてきました。

【参考】袋井市静岡モデル防潮堤整備利活用基本計画における防潮堤の利活用(公園機能)検討のコンセプト



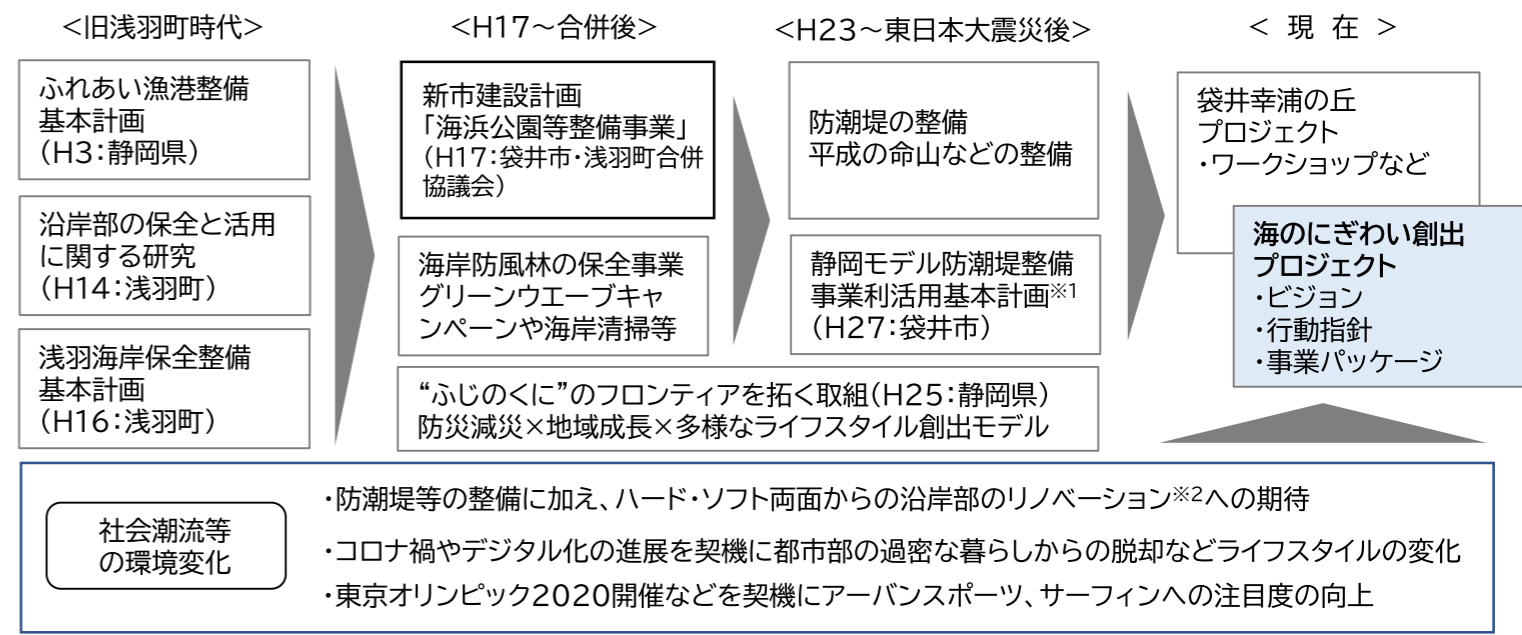
●これまでの検討の中で、**海岸侵食や津波の被害が想定される地域に対する負のイメージを払拭するため**、防潮堤整備のほか、**将来に向けた明るいビジョンなどハード・ソフト両面の対策**が求められています。

●また、東京オリンピック2020を契機としたアーバンスポーツのムーブメントやコロナ禍、デジタル社会の急速な進展などにより**人々の価値観やライフスタイルに変化**が表れてきています。

●一方、防潮堤整備の完成目途が立ち、静岡県第4次地震被害想定における津波高に対する安全が確保されようとしている今こそ、**これまで検討してきた防潮堤を含む地域資源の利活用に関するアイデアを具現化**し、多くの方々に本市の沿岸部が持つポテンシャルを認識してもらう**絶好の機会が到来**しています。

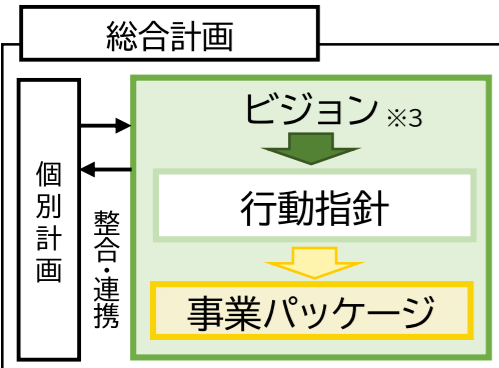
こうしたことを踏まえ、このビジョンは、**多様な主体が連携し**、新しい時代の風を力にして、海という地域資源の磨き上げにより、**新しい人の流れをつくり、活力を呼び込むことを目指す**ためのものであり、本市全体の価値向上や発展につなげていくことを目的とするものです。

(参考)沿岸部の利活用に関する構想や検討の経緯等



※1 静岡モデル防潮堤整備事業利活用基本計画は、「海浜公園等整備事業」など従前の計画や議論を受け止めたうえで、自然環境の保全・維持やレクリエーションの場の創出等を図る計画として捉えます。
※2 リノベーション…新たな機能や価値を付け加えた改修・刷新。

II ビジョン及び行動指針の位置づけ



ビジョンは「静岡モデル防潮堤整備事業利活用基本計画」やこれまで検討されたアイデアのほか、今後の多様な主体との連携(民間活力の誘引)などを期待し、**概ね20年後の将来像**を見据えて策定します。
行動指針ではビジョンの実現に向けた**取組の方針**を整理します。
事業パッケージは「同笠エリア」を軸として**実施する主だった事業**を整理するものです。
事業実施エリアについては、袋井幸浦の丘プロジェクトにおける検討結果を踏まえ選定しました。

※3 本ビジョン(プロジェクト)は、各政策の実現を図る実践の場であり、総合計画に掲げる分野横断的な取組の実現を図るものです。

(ビジョンの推進に係る基本的な考え方:5つの挑戦)

海のにぎわい創出プロジェクトによる取組の効果を市全体に波及させていくため、未来志向で、時代を先取りする新技術や手法などを積極的に取り入れるなど、**常に進化し続ける先導的な地域づくりの実践の場**として、次の5つの挑戦に取り組むことで、『日本一健康文化都市』の早期実現を目指していくためのまちづくり手法の確立にも挑戦します。

- 地域資源や新しい技術をフル活用し、**新たなにぎわいの創出**や生産性の向上と生活の豊かさを両立する「ふくろい」ならではの**“よりアクティブな暮らし”**の実現に挑む。
- 市民が誇りと愛着を持つ生活文化、地域資源を再確認・発掘し、全国や世界を視野に本市の魅力伝えるものに磨き上げ、**市民の定着や関係人口の増加に資する情報発信**に挑む。
- 利用者目線や民間ビジネスの観点から既存の公共施設等のポテンシャルを最大限引き出し、**新たなサービスの提供と「稼ぐチカラ」の向上**に向けた**創意工夫**と**既成概念にとらわれることなく規制の緩和**等に挑む。
- 変化の激しい時代において、ビジョンの実現を図っていくために、**SDGsやESG**※4の観点のものと、行政や地域住民のみならず、**多様な主体と地域の未来を共に考え、共に創っていく新しいまちづくり**に挑む。
- 社会の流れをしっかりと掴み、社会環境変化に適時的確に対応していけるよう、**柔軟な思考で取組を見直すアジャイル型**※5の運用に挑む。

1 地域活力の創出

新たなにぎわいづくりなど
しっかり「稼ぐ」取組への挑戦

(関連計画)第2期総合戦略(挑戦2)

2 まちの魅力の発信

地域に対するイメージなど
リ・ブランディング※6への挑戦

(関連計画)第2次総合計画「後期基本計画」
(関連)“ふじのくに”のフロンティアを拓く取組

3 公共施設マネジメント

公共施設の価値の最大化、
規制緩和などへの挑戦

(関連計画)第2次行政改革後期実施計画
(関連計画)公共施設等総合管理計画

4 共創のまちづくり

持続可能で発展的な環境・
関係づくりへの挑戦

(関連計画)第2次総合計画「後期基本計画」

5 迅速・柔軟な対応

時流を逃さず挑戦し、ニーズに的確に
適応していくアジャイル型への挑戦

(関連計画)第2次総合計画「後期基本計画」

※4 ESG…持続可能な世界の実現のために企業の長期的成長に重要な「環境(E:Environment)」、「社会(S:Social)」、「ガバナンス(G:Governance)」の3つの観点。

※5 アジャイル型…短期間で実装と改善を繰り返し、不具合や改善点を発見して修正を加えながら完成形を目指す取組。

※6 リ・ブランディング…価値の再定義により新たな価値を創造すること。

Ⅲ 海のにぎわい創出ビジョン

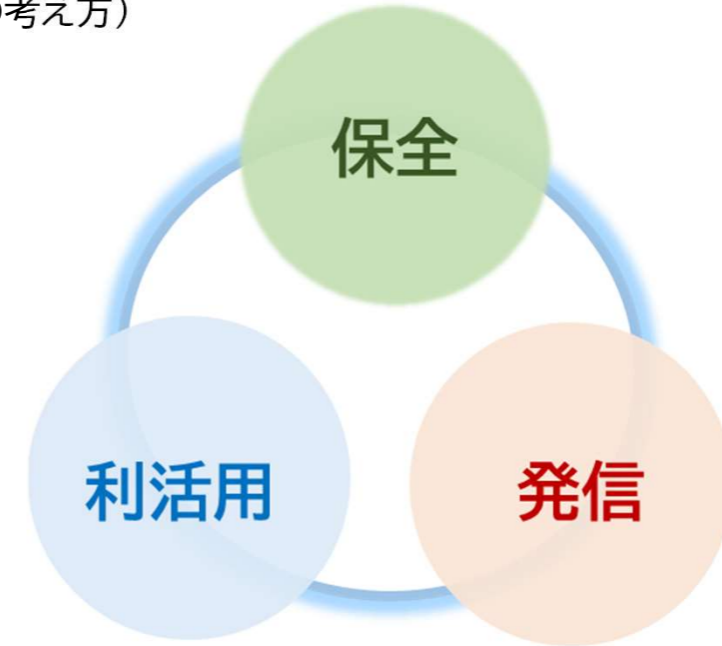
(共に創り出したい価値【ビジョン】と3つの観点)

共創価値【ビジョン】

海とともに暮らす 活力と希望があふれる Smile Life City

袋井幸浦の丘プロジェクトにおけるこれまでの検討においては、地域と共に防潮堤の整備による安全安心の確保と保全を軸とした活性化について議論が進められてきました。防潮堤の植樹祭やウォーキングイベントなどに積極的に取り組むことで、一定の成果を上げてきたところですが、今後は、地域内の人口減少や高齢化が進む中で、こうした取組の持続性が課題となっています。そこで、海岸や防潮堤、スポーツエリアといった地域資源と地域住民、行政を「海のにぎわい創出プロジェクト」が有機的に結びつけ、「自然環境の保全」に加え、「地域資源の利活用」と「まちの魅力の発信」の3つの観点を持って、本市の新しい価値創出に向けた持続可能な取組を推進していきます。

【地域の活力創出のための好循環】
(3つの観点の考え方)



1 自然環境 保全

海を接点とした新たな仲間との共感をもとに、地域内外の多様な主体と白砂青松の美しい景観を形成する砂浜や防風林、多様な動植物を育む自然環境の保全に向けた取組を一層推進していきます。飛砂や潮害防備のための防災林を含む防潮堤の適切な保全や防犯対策の推進により、安全安心な地域づくりを目指します。

2 地域資源 利活用

スポーツ拠点施設をはじめ、海や防潮堤など一部のみの利用にとどまっている既存資源が有するポテンシャルを最大限引き出すとともに、利用者の利便性とマナーの向上を図ります。豊かな自然や景観を体現することや、マリレジャー・スポーツなどアクティビティの充実を図ります。

3 まちの魅力 発信

「海のある暮らし」や「地域の歴史・文化」など、まちの魅力を積極的かつ戦略的に発信することで「今、ここにしかない出会い」を呼び込めるよう、シティプロモーションの充実強化を図るとともに、利用者が発信したくなるような環境整備や機会の創出に取り組むことで定住人口の増加を目指します。

持続可能な環境づくり

地域未来を創る仲間づくり

選ばれるまちづくり

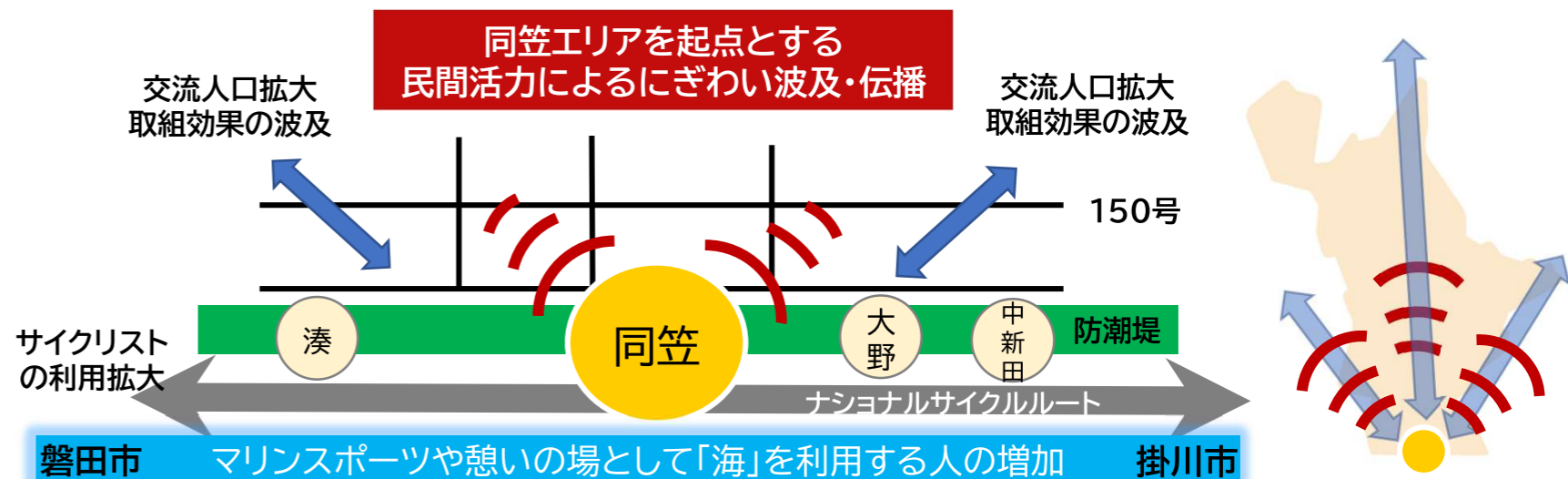
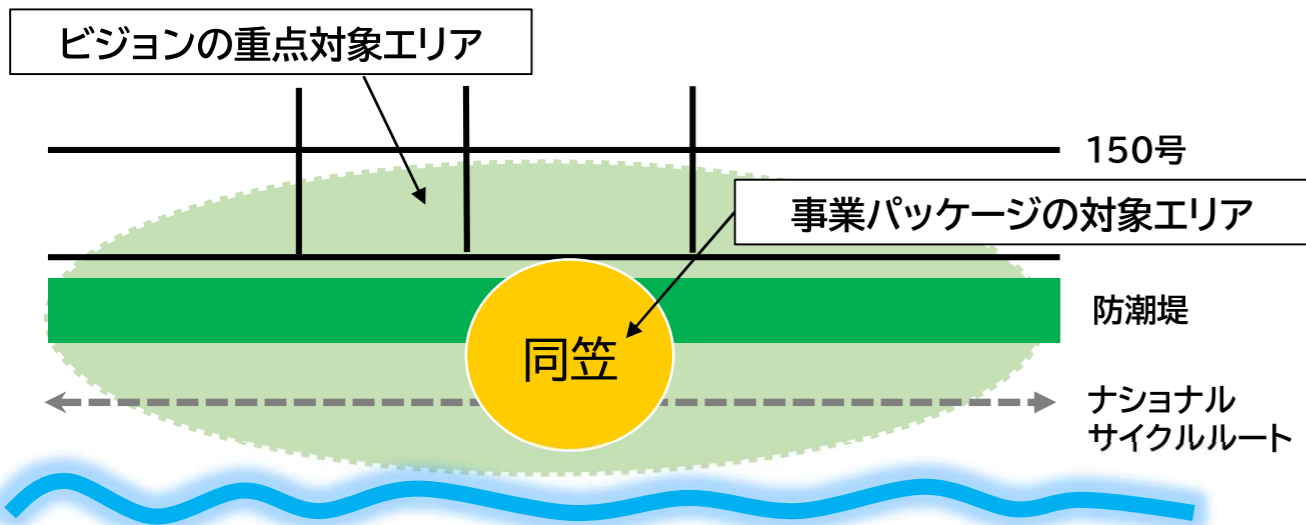
「静岡モデル防潮堤整備事業 利活用基本計画」に基づく袋井幸浦の丘プロジェクトで検討してきた防潮堤などの保全・利活用といった観点に、スポーツ施設やマリレジャー・スポーツなどの地域資源の利活用とまちの魅力の発信の観点を加えることで、当該地域で活動する人や取組に対する関心を高め、多様な主体との新たな出会いを創出します。こうした3つの観点の「有機的な連携(好循環)」を図ることで、地域の活力創出を目指します。

場づくり(フェーズ1) & 仲間・地域づくり(フェーズ2)

防潮堤や命山の整備に加え、行政が先行投資により同笠エリアが有する地域資源を磨き上げることで、個性あるライフを支える基盤づくりを進めるとともに、「保全」「利活用」「発信」の観点で、にぎわいを創出する仲間・地域づくりに向けた取組を、小さな取組から実証と検証を行いながら効果を生み出し、必要に応じて随時見直しを行っていくことによるアジャイル型で推進します。

20年後の将来像(共創価値【ビジョン】の実現)

同笠エリアを軸として生まれた「にぎわい創出の好循環」が周辺エリアに波及し、新たな豊かさを獲得するとともに、交流人口・関係人口のほか移住・定住の促進や民間投資を誘発するなどにより持続的なにぎわいを創出します。また、民間事業者の発意による事業展開や土地利用を促すため、近隣市町等との積極的な広域連携や規制緩和などに挑戦し、地域のリ・ブランディングにより、**市域全体へのにぎわいの波及・伝播**の実現を目指します。



IV ビジョン及び事業パッケージの対象エリア

- ビジョンの重点対象エリアは、図1のとおり「概ね国道150号線の南側」とします。
- 事業パッケージの対象エリアは、袋井幸浦の丘プロジェクトにおける検討結果を踏まえ、図2のとおり、「同笠エリア」の防潮堤やスポーツ施設などとして位置づけます。



この取組は、同笠エリア外の低・未利用地や観光資源などの有効活用も併せて検討するとともに、周辺自治体が有する地域資源との連携も積極的に進めていきます。
また、その価値を最大限引き出すために、官民が連携して取り組みます。

同笠エリアでの取組を核として、重点対象エリアへの民間投資などの誘引はもとより、その効果を市域全体へ波及・伝播していくことを目指します。



V ビジョンにおける3つの観点の進め方(取組の方向性)

1 自然環境 保全

【解決したい課題】

松枯れ、海岸侵食、ゴミ、マイクロプラスチック、耕作放棄地、津波対策 など

➤持続可能な環境づくり

海を接点とした新たな仲間との共感をもとに、地域内外の多様な主体と白砂青松の美しい景観を形成する砂浜や防風林、多様な動植物を育む自然環境の保全に向けた取組を一層推進していきます。

1-1 白砂青松の保全・継承



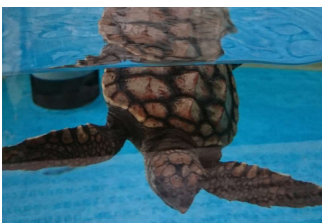
- 新たに整備された防潮堤の防風林やグリーンウェイブを未来につなぐため、関係機関と協力した松枯れ対策などに取り組みます。
- 白砂青松の景観を形成し、海と親しむ砂浜を守るため、静岡県などと連携して、サンドバイパス事業など海岸侵食対策に取り組みます。

1-2 自然環境を守り・育む



- 自然環境の保全活動支援や発信により、活動の価値を高めるとともに、仲間づくりに取り組むことで、海浜植物などの豊かな自然を守ります。
- 教育機関と連携し、海洋汚染などの環境問題を学ぶ体験フィールドとして、ビーチクリーン活動などを通じて環境教育を推進します。

1-3 ウミガメを守り共に生きる



- ビジョンが描く約20年後も、ウミガメが安心して産卵できる場所であり続けられるよう、自然保護団体などと連携して取り組みます。
- ウミガメの放流体験会などを通じ、産卵地であることを広く発信し、価値の共有化を図ります。

1-4 耕作放棄地対策の推進



- 沿岸部の優れた景観と農地の持つ多面的機能を守るために、担い手の高齢化や減少により増加する耕作放棄地対策を推進します。
- 沿岸部エリアとしての環境保全という視点に立って、既存概念に捉われないことなく農地の利活用を検討します。

1-5 防潮堤・命山の整備と保全による安全安心な地域づくり



- 防潮堤の速やかな整備を推進するとともに、植樹会などを通じて多様な主体が共に守り、安全安心を実感できる地域づくりを進めます。
- デジタル技術の活用による防災情報の発信や避難誘導環境の整備、防犯対策の推進により、安全安心な地域づくりを推進します。

2 地域資源 利活用

【解決したい課題】

地域資源の利活用、多世代・多分野交流、地域の稼ぐチカラの向上、広域連携 など

➤地域未来を創る仲間づくり

スポーツ拠点施設などの既存資源に加え、海や防潮堤など一部のみの利用にとどまっている低活用資源が有するポテンシャルを最大限引き出していきます。日の出や夕焼け、波の音、潮の香といった豊かな自然や景観を体感し、海を身近なものにするとともに、マリトレジャー・スポーツなどアクティビティの充実を図ります。

2-1 利用者環境の充実とすそ野の拡大



- スポーツや海、自転車などの地域資源のポテンシャルを最大限引き出すとともに、利用者マナーに配慮した環境整備や啓発に取り組むことで、豊かな暮らしを支える基盤を創出します。
- 利用者環境の充実によりすそ野の拡大を図り、地域未来を創る仲間づくりを推進します。

2-2 にぎわいの創出と地域の稼ぐチカラの向上



- 地域資源を最大限活用し、多様な主体と共に創っていくために、既存概念に捉われず公有地の民間開放など規制緩和も視野に官民対話に取り組めます。
- 利用者や民間ビジネスの視点でのイベント開催や自然体験などにぎわい創出のための取組を推進します。

2-3 地域資源を活かした多世代・他分野交流の推進



- 海をきっかけとした新たな仲間との共感を創出するための、人が集い、交流する場の整備とその効果的な運営に取り組めます。
- 星空観察会やウミガメの放流体験会、釣り体験、地引網の復活など、多くの人が集まり、出会い、交流する仕組みづくりを推進します。

2-4 自然の癒しとアクティビティによる健康促進



- 遠州灘の豊かな景観、波の音や潮の香といった自然を感じることで、スローライフを体現する癒しを感じる空間づくりに取り組みます。
- スポーツやマリトレジャーの体験教室など、気軽に楽しめる運動機会を創出することで、暮らしの充実と健康促進に取り組めます。

2-5 循環共生圏への発展に向けた広域連携



- “ふじのくに”のフロンティアを拓く取組や「循環共生圏」の形成を目指す取組と連携し、沿岸部が有する資源を広域的に捉え、関係市町が連携し、国道150号線の整備促進など、発展に向けた取組を推進します。
- 遠州灘が有する豊かな自然や景観を活かした新しいエリアの形成に向けて取り組みます。

V ビジョンにおける3つの観点の進め方(取組の方向性)

3 まちの魅力 発信

▶選ばれるまちづくり

「海のにぎわい」や「海のある暮らし」など、まちの新たな魅力を戦略的・積極的に発信することで、「今、ここにしかない出会い」を呼び込めるよう、シティプロモーションの充実強化を図るとともに、利用者が発信したくなるような環境整備や機会の創出に取り組んでいきます。

【解決したい課題】

まちの魅力(歴史・文化・ライフスタイル)の発信、
多様な価値の創出、企業連携の取組推進 など

3-1 興味・関心を持ってもらうための仕掛け



(参考)和歌山市モニュメント

- 地域資源を磨き上げ、世界や全国を視野に本市の魅力を伝えるリ・ブランディングに取り組めます。
- 釣りやサーフィン大会などの民間主体の既存の取組の更なる発展・発信に向けて関係者と連携して取り組めます。

3-2 新たなライフスタイルの提案



- デジタル技術の進展が可能にした、二地域居住など新たなライフスタイルの提案・発信を通じて関係人口の創出を目指します。
- 「仕事」と「暮らし」と「遊び」が融合した、その先にある新しい価値の体現(海のある暮らし)とその発信に取り組むとともに、移住・定住の促進を目指します。

3-3 多面的機能に着目した砂の造形など多様な価値の創出



(参考)宮崎市臨海公園

- 海は森林により豊かになり、保全活動により環境や生態系が守られ、さらにはレクリエーションなどのリフレッシュの場、体験学習の場にもなっています。これら、沿岸部が有する多様な機能の発信により、仲間づくりと共に価値を創る取組を推進します。

3-4 「幸浦の丘」が開く地域の歴史と文化への好奇心



- 江戸時代中期に築造された2つの命山やかつては運河の役割を果たした前川、2つの神社など地域の歴史資源の発信を通じて、地域への理解を深める取組を推進します。
- 歴史と文化に親しみ、唐人船や亀の松など地域への理解を深めるウォーキングイベントやサイクルコースの設定に取り組めます。

3-5 積極的な魅力発信と企業との連携推進



- 土地利用などの民間投資の誘引のみならず、企業版ふるさと納税制度の活用など、多様なカタチでの仲間集めを目指した情報発信に取り組めます。
- 官民対話の推進などにより、受け手にとって価値の高い、対話型の情報発信を推進します。

VI ビジョン実現のための行動指針

ここでは、ビジョンを踏まえ、海のにぎわいを具現化する取組を推進するための行動指針を定めます。同笠エリアをにぎわいの拠点とするため、未来志向で、海にかかわる様々な関係者(地域住民・企業・スポーツ施設利用者・サーファー・釣り人・サイクリスト・行政など)が連携し、試行錯誤しながら新たな価値を共に考え、共に創り出すために挑戦し続けることを共有し、ビジョンの早期実現を目指します。

フェーズ 1

海などの既存資源のポテンシャルを最大限活かした「にぎわいを創出する拠点」の整備
～ 人が集い、交流する場の整備 ～

- ▶ 海や防潮堤、スポーツ施設などのポテンシャルを最大限引き出す
“にぎわい創出・交流拠点”の整備
- ▶ 海や沿岸部の多面的機能の再発見・発掘による
“多様な価値の創出”に向けた取組
- ▶ 海を活かした暮らしやイベント開催など魅力を伝える
“新たな人”を呼び込む情報発信
- ▶ 多様な主体と地域住民との繋がり方や連携のあり方など
“新たな仲間づくり”に向けた取組

にぎわいを創出する拠点を核とした交流や民間活力の誘引など「地域活性化」の取組
～ 新たなつながりや新しい活動・サービスが生まれる地域づくり ～

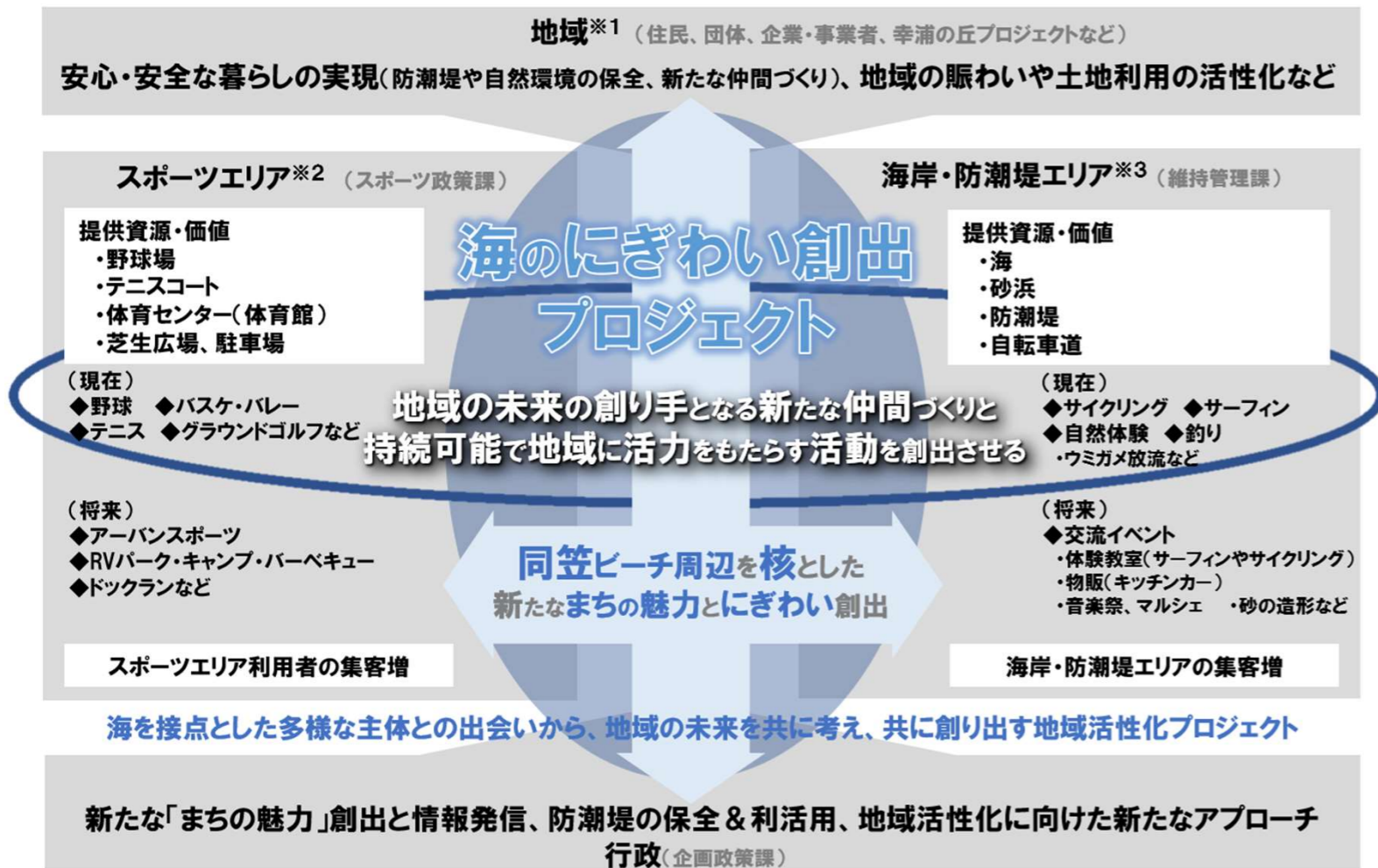
フェーズ 2

- ▶ にぎわい・交流拠点を核とした民間活力の誘引など
“同笠”をリ・ブランディングする取組
- ▶ 海のある暮らしの魅力発信による移住希望者獲得
- ▶ 新たなサービスの創出など民間投資の促進
- ▶ シビックプライドの醸成、自然との共生など
官民共創による持続可能で発展的な取組の実践

※フェーズ1・2に掲げた各取組については、実施する計画年次を明確化するものではなく、現場の状況やニーズなどを踏まえ、逐次見直ししながら、実施していきます。

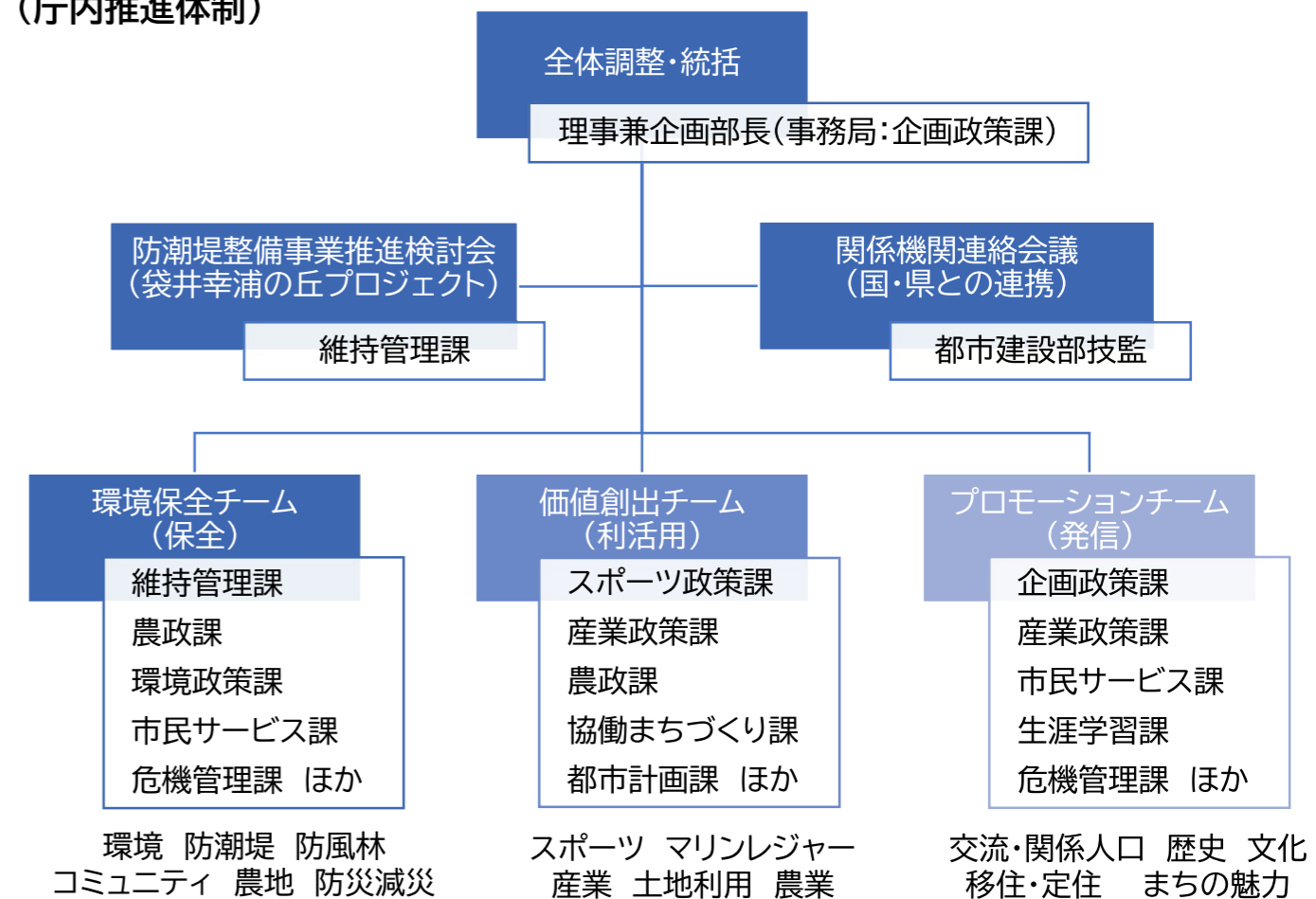
VII ビジョンの推進に向けて(推進体制)

海のにぎわい創出プロジェクト関連図



※1 地域住民の高齢化や人口減少への対応。幸浦の丘プロジェクトなどの議論を踏まえた沿岸部の保全と活用の実践への期待。
 ※2 施設の老朽化など維持管理コストの増大や利用者の満足度の向上に向けた対策が課題。
 ※3 サーファーなどの限定的な利用、海の魅力など提供可能な資源のポテンシャルを十分な活かしかれていないことが課題。

(庁内推進体制)



本ビジョンに基づく海のにぎわい創出プロジェクトの実施にあたっては、これまで本市が総合計画などで取り組んできたPDCAサイクルを軸としつつも、より短期的なスパンで事業効果やニーズを捉え、必要に応じて随時見直しを行っていくことによるアジャイル型の事業推進を追究していきます。

VIII 本ビジョンに対して関係者が期待すること

関係者(ステークホルダー)	期待すること
地域住民	長い年月を経て受け継がれてきた浅羽海岸の歴史や自然環境を後世に継承していく活動の活性化。また、交流人口や関係人口の増加による地域の活性化や地元経済面での活用。
スポーツ施設利用者	利用者の増加によるスポーツ施設の機能充実。海への一体感が醸成されていく中、砂浜でのウォーミングアップやトレーニングを行うなど、運動面でも海を一体的に活用。
サーファー・サーフショップ	30年以上歴史のある地元サーファーによるビーチクリーン活動の継続と拡大。同笠海岸のブランディングやにぎわい創出などに繋がる民間主催イベントの開催。トイレや水道施設など環境充実。
釣り人	砂浜へのアクセス環境の改善。清潔なトイレや水道設備など利便性の向上。
サイクリスト	遠州灘沿いを走るサイクリストが浅羽体育センター内の交流スペース(サイクルスタンド・水分補給・内陸への観光案内機能等設置)で休憩し、袋井市内外の自転車愛好家の集い語らう拠点。
観光協会	サーファーやサイクリスト、釣り人など交流人口の増加による、袋井市の海の観光資源化。訪れた人々が、海で楽しい時間を過ごす仕掛けづくりや内陸への誘客など、市内経済面への活性化。
企業・事業者、商工団体	観光協会同様、防潮堤広場において、地元事業者によるマルシェやキッチンカーイベントの開催など、地元事業者が、袋井の資源である海で経済やまちの活性化にむけた仕掛けの展開。来訪者向け新規事業の展開。
スポーツ施設管理者(指定管理者)	海を活かしたエリア運営管理により、スポーツを核として多様な人々が集い交流、また消費する観光交流施策も意識した積極的に稼ぐ運営。
自然保護団体	太平洋を望む美しい景観や白砂青松の海岸線と、アカウミガメの産卵地として貴重な砂浜環境であることを広く啓発し、これまで以上に市民が環境問題を考えるきっかけの創出。
行政(袋井市・静岡県)	東日本大震災以降の人口減少や民間投資の低迷などが続く沿岸部において、スポーツや観光面での活性化をもたらすこと。コロナ禍を経て変容するライフスタイルやテレワークの普及等を見据え、ローカルの豊かな自然環境(海・川・山)で人間らしく生活し、仕事ができる環境整備などまちの魅力の向上。

ビジョンの実現

海とともに暮らす
 活力と希望があふれる
 Smile Life City

日本一健康文化都市の実現

IX 同笠エリアの価値創造に向けた事業パッケージとエリアマネジメント

<コンセプト> 人が集い海と親しみ、やすらぎと体験を通じて、新たな挑戦を応援する交流拠点

マリナクティビティゾーンでは雄大な太平洋の情景や波の音、潮の香など、自然の癒しを感じることができるとともに、交流イベントなどが実施されるなど、海を学び、体感し、ワクワク感のある空間を創出します。スポーツアクティビティゾーンでは、既存のスポーツ施設の利用者に加え、海をきっかけに集う人達も気軽にスポーツなどに親しむことができる空間を創出します。そして、にぎわい・交流ゾーンを、このエリアに集う人や市民、スポーツ施設利用者が交流し、新たなにぎわいを創出するための結節点となる空間にすることで、全体が有機的に連携し、海に親しみ、身近に感じることができエリアを創出していきます。

※このコンセプトは、同笠エリアが目指す将来の姿を関係者らと共有し、一体的な管理やルールづくりに役立てるものです。また、民間活力の誘引の際にも活用していきます。

1 事業パッケージ(主だった事業)

※事業パッケージには、将来想定される取組を含みます。

2 エリアマネジメント(エリア内のゾーニング)

① 保全パッケージ	担当課	② 利活用パッケージ	担当課	③ 発信パッケージ	担当課
海岸環境保全 (海岸清掃など)	維持管理課	にぎわい・交流拠点の運営	スポーツ政策課 指定管理者ほか	サーフィン・釣り大会などの誘致・開催	スポーツ政策課 民間事業者ほか
防風林の保全 (グリーンウェーブなど)	農政課	集客・交流イベントの実施	スポーツ政策課 民間事業者ほか	発信したくなる環境づくり (仕掛け・イベント)	スポーツ政策課 指定管理者ほか
海岸保全(養浜対策)	静岡県土木事務所 維持管理課	民間イベントでの公共施設 利用促進(規制緩和)	スポーツ政策課	海の多面的機能の活用 (砂の造形、海洋資源保護など)	スポーツ政策課 指定管理者ほか
自然体験学習機会の提供 (ウミガメの放流体験)	学校教育課 生涯学習課	自然・スポーツ体験教室	スポーツ政策課 指定管理者ほか	SNSなどによる情報発信	企画政策課 来訪者
耕作放棄地対策 (観光農園の誘致など)	農政課	ナショナルサイクルルート からのサイクリスト誘引	産業政策課 観光協会ほか	企業版ふるさと納税の 活用推進	企画政策課
自然公園の保全・管理 (海浜植物など)	農政課 静岡県自然保護課	耕作放棄地対策・利活用 (観光農園の誘致など)	農政課 民間事業者ほか	地域貢献の積極発信 (ごみ拾いアプリなど)	スポーツ政策課
通信環境の整備 (災害情報の発信)	ICT推進課 危機管理課	自然体験学習機会の提供	学校教育課 生涯学習課	通信環境の整備 (ワーケーションなど)	ICT推進課
避難誘導環境の整備 (避難誘導案内など)	危機管理課	循環共生圏の形成促進 (広域連携)	企画政策課	歴史・文化資源の活用 (ウォーキングイベントなど)	維持管理課 幸浦の丘プロジェクト

※事業パッケージ(ソフト事業)と基本計画(機能向上のための整備事業)は相互に補完することで、効果の最大化を図る

にぎわいを創出する拠点の整備

ビジョンに掲げる同笠エリアの整備方針

市議会や地域住民、企業・団体、実証事業などを踏まえつつ、現状と課題の分析に基づき、**同笠エリアに求められる機能**を整理

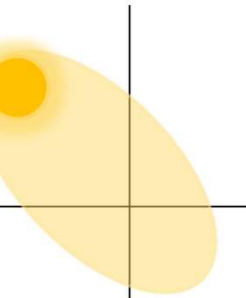
整備方針に基づき策定

同笠エリアの整備に係る基本計画

同笠エリアの整備方針と整合を図りつつ、今後概ね5年間で実施予定の**事業実施の熟度が高いハード事業**について整理したもの

3 エリアデザインの基本軸

アクティブ派(積極的)



パッシブ派(受動的)

このエリアは、既存のスポーツ施設の利便性向上はもとより、**海を接点**に、多様な主体が出会い、**新たな活動の創出**を促すことができるよう、**より豊かなライフスタイル**を追求する**アクティブ派**の共感を得やすい空間づくりを推進します。



スポーツアクティビティゾーン

(民間活力や提案を積極活用するゾーン)

<イメージ>

- ・大規模駐車場
- ・アールスポーツ施設
- ・RVパーク施設
- ・キャンプでの一時利用 など
- ※低利用地を活用した収益施設化

にぎわい・交流ゾーン

<イメージ>

- ・公衆トイレ兼交流スペース
- ・多目的利用ができる芝生広場
- ・マルシェ(地場産品販売)
- ・交流イベント など

マリナクティビティゾーン

<イメージ>

- ・駐車スペース
- ・展望(潮見台)スペース
- ・休憩スペース
- ・手洗い場、シャワー
- ・交流イベント など

※航空写真 出典: 国土地理院 (<https://cyberjapandata.gsi.go.jp/xyz/nendophoto{year}/{z}/{x}/{y}.png>)

※ハード整備にあたっては、国や県の補助金等を積極的に活用するほか、3か年推進計画と整合を図り実施します。また、スポーツアクティビティゾーンの活用や施設の運営等は、民間活力を積極的に活用します。

X 同笠エリアの整備方針

同笠エリア※は、「マリンアクティビティゾーン」、「にぎわい・交流ゾーン」及び「スポーツアクティビティゾーン」で構成しており、共通の考え方のもと、各エリアの環境整備を推進することで、当該エリアの一体性を担保するため、概ね10年先を見据え、『同笠エリアの整備方針』を以下のとおり定めます。

※同笠エリアは、「静岡県が所有し、市の維持管理課が所管する防潮堤エリア」と「市のスポーツ政策課が所管するスポーツ施設エリア」に大別される。

(前提となる事項)

同笠エリア整備方針の策定にあたっては、利用者の利便性向上に資する整備に優先的に取り組むとともに、「5つの挑戦(地域活力の創出、まちの魅力の発信、公共施設マネジメント、共創のまちづくり、迅速・柔軟な対応)」及び「3つの観点(保全、利活用、発信)」と整合を図るものとします。
将来にわたり、当該エリアの持続的な発展に向け、利活用や維持管理に関する仕組みや体制づくりなどの状況を踏まえ、必要となる施設や機能に関する整備内容を「基本計画」に定め、逐次、内容を見直していくものとします。

(同笠エリアの整備方針)

1 利便性の向上

～使い手の視点を大切にします～

- 誰もが多様な使い方ができる空間づくり
ユニバーサルデザインやバリアフリーへの配慮
- おもてなし機能の充実
清潔感のあるトイレや休憩施設等の整備
- 海へのアクセス機能の向上
自動車、自転車、歩行者に配慮した進入路の整備
- 防潮堤の付加機能の向上
水洗い場や展望スペース、駐車場などの整備

2 一体感の醸成と自然との調和

～各エリアの相乗効果を高めます～

- 自然環境と調和した施設整備の推進
防風林やウミガメのほか、景観等への配慮
- 「DORI」ブランドの構築
看板やロゴなど意匠の統一
- 利用者の動線に配慮した施設整備
駐車場やトイレ等の相互利用の促進ほか
- 幸浦の丘プロジェクト2.0の組織化
利活用や維持管理に係る互惠関係づくり
地域住民との交流機会の創出ほか

3 ワクワクの創出と発信

～新たな出会いや価値を創出します～

- 豊かなライフスタイルの創出
飲食や娯楽を楽しめる空間の形成
芝生広場や展望スペースなどの整備ほか
多様な生き方を支えるデジタル基盤の整備
- 民間事業者らの商業的利用の促進
キッチンカー等が出店しやすい環境整備ほか
- 官民共創によるイベントなどの開催
異業種交流や体験型のイベント企画、施設の
多面的な利活用実証と魅力の発信ほか

4 安全・安心の確保

～誰もが気軽に、安心して訪れることができる環境を整えます～

- 誰もが安心して利用できる環境づくり
防潮堤階段の手摺りの設置や進入路の安全対策、防犯対策ほか
自然と調和しつつ、星空観察など多様なシーンでの利活用に対応した環境整備ほか
防潮堤内の動線を踏まえた砂浜への進入路の安全対策ほか
- 震災等の発生時における利用者への周知
安全な避難先の周知や誘導ほか

(現状と課題)

同笠エリアの整備において求められる機能

【現状】

- ・既設のトイレは浅羽体育センター(体育館)内及び野球場バックネット裏の2か所のみ
- ・防潮堤への車両の進入を禁止している
- ・防潮堤に利便施設(水洗、休憩ほか)がない
- ・B&G跡地など低未利用地が存在している

【課題】

- ・24時間利用可能なトイレが野球場バックネット裏のみであり、海岸利用者の利便性が低い
- ・駐車場から海へのアクセスが悪い(階段の足場が悪い、スロープの距離が長いなど)
- ・砂を洗い落とせずファミリーに敬遠される
- ・滞留機能がなく気軽な日常利用に不向き

【現状】

- ・ウミガメの産卵地となっているほかハマボウフウなどの海浜植物の植生地となっている
- ・防潮堤は利活用を想定して整備していない
- ・施設整備によって生じる維持管理に対する不安の声がある

【課題】

- ・整備にあたっては、ウミガメの産卵地であることに加え、県立自然公園内であることなど、自然環境への配慮が必須(形状、デザインほか)
- ・一体利用を想定した施設配置になっていない
- ・継続的な利活用や地域の発展に向けた持続可能な維持管理体制の構築

【現状】

- ・サーフィン、釣り、スポーツなど来訪目的以外の利用がなされていない
- ・イベント利用など、既存施設の複層的な利活用の機会が少ない
- ・多様な利用者の交流機会がない

【課題】

- ・サーファーや釣り人にとっての人気スポットを地域が誇る聖地に高めるための利便施設や発信力の不足
- ・多様な利用者が交わる空間や動線、機会がない。
- ・水や電源が無いなどイベント開催環境が不十分
- ・内陸部へ引き込むゲートウェイ機能の不足

【現状】

- ・海岸利用者の目の届かない場所に駐車場があるため車上荒らしが発生している
- ・防潮堤への進入階段に手摺りがない
- ・浜崖などにより砂浜への入り口が急峻
- ・近隣の避難施設が分かりにくい

【課題】

- ・人目につきにくい駐車場と防犯対策の不足
- ・防潮堤への進入路(スロープ)の幅員が狭い
- ・防潮堤登り口における動線の集中
- ・防潮堤内における自動車、自転車、歩行者の動線の整理
- ・分かりやすい避難誘導表示がない

【参考1】 一体感を生む意匠の統一実証事例



同じロゴ(看板)があることで、エリアの一体感を感じた。

統一したロゴの設置
防潮堤(写真左)とスポーツ施設の駐車場入口(写真右)

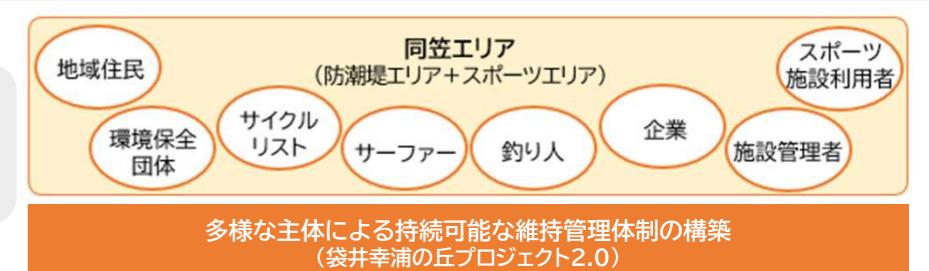


【参考2】 新たな繋がりの実証事例



イベントを通じて、これまで関わりのなかった分野の人たちと出会い、繋がれた。

実証イベント出展者の声



XI-① ビジョンの実現に向けて参考とすべき事項

「袋井幸浦の丘プロジェクト」ワークショップなどからのアイデア

これまで「静岡モデル防潮堤整備事業 利活用基本計画」に基づく「袋井幸浦の丘プロジェクト」において、5年16回に渡って地域住民に加えサーファーなどの利用者から、利活用に向けた意見集約を進めてきました。こうしたものに加え、市民をはじめサーファーや釣り人、サイクリスト、スポーツ施設利用者、企業・事業者など様々な方の意見や思いをもとに、このビジョンを策定しました。

- ・ジップラインやアスレチックなどを作って、遊べる場所が欲しい(10代男性)
- ・子どもが遊べる場所にしたい

- ・地引網を復活させたい(60代男性)
- ・星空観察会など自然体験ができる空間に
- ・初日の出や夕日を眺めたい。

- ・幸浦の丘という歴史や文化を大切にしたい
- ・防潮堤への進入路(遊歩道)改良

- ・サイクリスト向け休憩する場所が欲しい
- ・観光客が訪れる施設が欲しい(物販など)

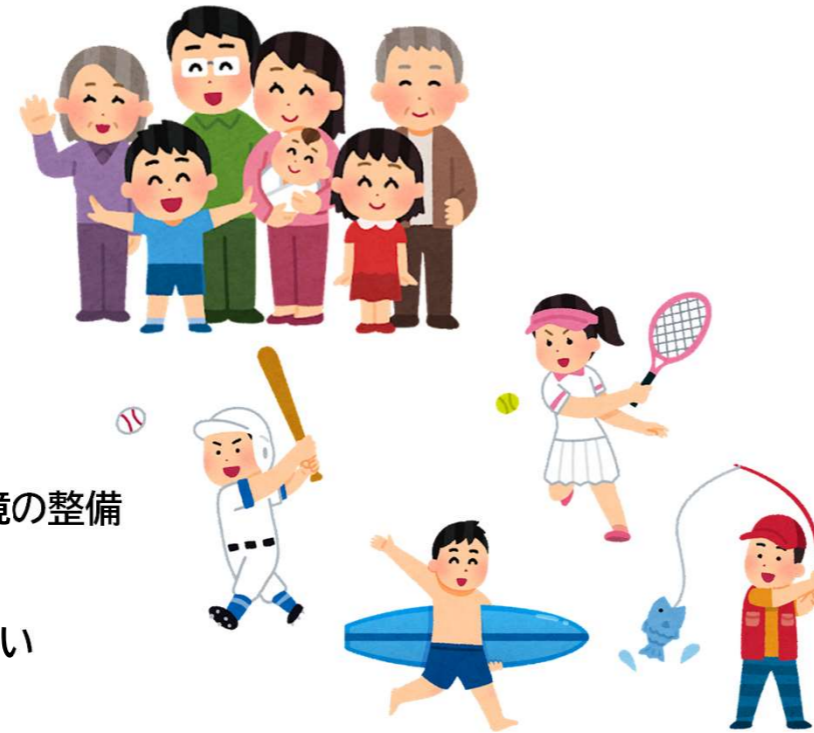
- ・防潮堤へ車で進入出来るようなアクセス環境の整備
- ・砂浜から見える場所に駐車場が欲しい
- ・水道設備があるといい
- ・海岸利用者が利用しやすいトイレがあるといい
- ・キャンプスペース

- ・人とコミュニケーションをとることができる公園や広場があると嬉しい(30代女性)
- ・地域にある資源を活かし、交流型のおもてなしが必要



幸浦の丘プロジェクトでの検討イメージ(令和2年度検討内容)

- ・海岸線を5km以上走れる環境は素晴らしい(市外サイクリスト)
- ・風車や海岸線といった眺望がいい
- ・管理道を舗装すれば、自転車のトレーニングコースができる
- ・信号などの支障がなく走り続けることができる
- ・休憩スペースや自転車のメンテナンスができるといい



- ・防潮堤展望スペースを人が集う空間にしてほしい
- ・監視カメラの設置など防犯対策の実施

- ・ファミリー層向けの遊具があるといい
- ・キャンプ場やグランピング施設
- ・更衣室があるといい

- ・シンボリックでランドマーク的なものがあるといい
- ・高見台や潮見台などがあるといい

- ・同笠エリアに道の駅機能があるといい
- ・広域連携により誘客を図る取組
- ・沿岸部に立地する企業と積極的に連携して取組を広げてほしい

- ・利用が増えると治安面やルール面などで心配がある
- ・津波の危険などに備え、早めの避難誘導等の対策が必要

- ・「暮らし」「仕事」「遊び」といった視点で取り組み、移住定住につなげてほしい
- ・空間づくりとして音楽を用いたらどうか

- ・暑さ対策を検討する必要がある

- ・海岸侵食対応にもしっかりと取り組んでほしい

- ・ナショナルサイクルルートの活用

- ・袋井幸浦の丘プロジェクトに携わってくれている静岡文化芸術大学との連携継続

- ・同笠エリアで花火大会を開催したい

- ・地元の名産品と連携できないか(肉巻きおにぎり など)

- ・ウミガメの産卵地として保全していく
- ・子ども時代の原体験として海を親しむことは非常に重要

- ・ハマボウなど貴重な海浜植物

- ・ナショナルサイクルルートを軸として内陸へ引き込む仕掛け
- ・サイクリングコースの設定が重要



南の玄関口としての機能(イメージ)



XI-② 袋井市海のにぎわい創出ビジョン(素案)と取組に対する主な意見と回答の概要

意見交換の場(会議名称)	主な意見の概要	回答の概要
浅羽南自治会長会議 (R4.6.25)	防潮堤を車両で走行することは可能か。	同笠エリアの駐車場のみのみで、東西への走行は出来ない。
	同笠エリア以外の地区において、防潮堤への進入路などの整備は検討しているか。	他地区については、利用状況や要望を踏まえ、維持管理の在り方と併せて、順次検討していく。
	これまで利活用を中心に検討してきたが、発信は苦手とするところ。しっかり取り組む必要がある。	3つの観点の1つに位置づけ、多様な主体と共に取り組んでいく。
南部会議 (R4.7.28)	ビジョンにカタカナ表記が多い。高齢の方にも理解していただきやすいように、日本語表記へ修正してはどうか。	企業やより豊かなライフスタイル追求するアクティブ派など多様な主体との連携も視野に入れつつ、12月市議会に向けて検討する。
	地元の方々の理解と協力が必要である。	多様な機会を通じて地元をはじめとする多様な主体と意見交換を図る。
	トイレの管理者は誰になるのか。	気運醸成イベントなども活用しつつ、維持管理体制について検討を深めていく。
	取り戻したい「昔のにぎわい」とは。	海プロを通じて日常的に市民が海を使っている状態に戻していきたい。
	かつては砂浜で砂の造形や地引網などが行われていたが、海岸侵食が進んでしまった。この対策など、自然環境の保全にもしっかり取り組んでいく必要がある。	ビジョンにおいて課題を明示することで、取組を進める必要性を共有するなど、反映方法について12月市議会に向けて検討中。
第1回袋井幸浦の丘 プロジェクトワークショップ (R4.7.31)	サイクリングイベントやマルシェ、音楽イベント、ドローンレースなど多様なイベント利用ができそう。	活用可能性の共有方法について検討中。
	環境整備後の維持管理(ゴミ、草刈り、防犯など)が心配。	気運醸成イベントなども活用しつつ、維持管理体制について検討を深めていく。
	砂浜の利活用や自転車道の安全のためにも海岸侵食対策の強化や離岸流の危険性の周知が必要。	ビジョンにおいて課題を明示することで、取組を進める必要性を共有するなど、反映方法について12月市議会に向けて検討中。
	防潮堤への車の進入などの環境整備による環境保全上好ましくない。	保全、利活用、発信を三位一体で取り組むことで、持続的な地域の発展を目指していきたい。
	ビジョンは、20年後では遅い。せめて10年後を目指すべき。	多様な主体と共に、保全、利活用、発信の3つの観点を共有し、官民共創により海プロを推進するため、積極的なビジョンの共有を図っていく。
	未来の袋井市を担う若手の意見反映が必要。 (静岡文化芸術大学)これまで維持管理課のみの関わりであったものが、企画政策課やスポーツ政策課がプロジェクトに加わり、更に多様な部局を巻き込みながら進めようとしている。非常に心強く感じている。	気運醸成イベントなどを活用しつつ意見反映に取り組む。 ビジョン(VII ビジョンの推進に向けて(推進体制))において整理する。
自治会連合会長会議 (R4.8.4)	津波被害が想定される沿岸部において、安全安心が第一に求められる中で、利活用によるにぎわい創出といかに両立を図っていくのか。	避難誘導表示の整備などソフト事業において、安心して利用できる環境づくりを行っていく。
海のにぎわい創出プロジェクト 勉強会 (R4.8.18) <主催> 浅羽町商工会、 浅羽企業交流会、 袋井市観光協会浅羽まちおこし部会	イベントを実施するのであれば、協力したい。	複数機会を活用して同笠エリアの活用実証をしていきたい。11月3日に市主催のイベントを実施予定なので、是非連携して取り組みたい。
	太平洋岸自転車道に雑草が生い茂っている。草刈りなど適切な管理が必要。	今まで以上に県等に要望していくためにも、取組を通じて仲間づくりを進め、広域かつ多様な主体の意見として伝えていきたい。
	対象は、サーファーや釣り人が主なのか。大野で9反分の花畑を企画している。荒地対策としても効果的であると考えている。	まずは今の利用者の利便性向上が主だが、多様な方にご利用いただけるように、イベントで使い方の実証や未利用地の活用検討を進めていきたい。
	ひまわり畑で「どこでもドア」を設置して話題になった。かつて、どこどこあさば場所には恐竜があり、多くの人があった。段床展望スペースにブランコを設置してもいい。ワクワクするような取組を考えたい。	行政の苦手としている部分だからこそ、皆さまと連携し、応援をいただく中で、ワクワクするエリアづくりを進めていきたい。
	昔と比べ海岸侵食が進行した。また、砂浜への進入路が崖になって危険である。進入路はどうするのか。	養浜に関しては、引き続きサンドバイパス事業の適正な運用を県に要望する。砂浜への進入路については、アクセス動線とセットで今後検討する。
静岡県との事前協議	(中遠農林事務所)保安林内であっても、森林保健施設の整備は可能だが、何を整備するのか、維持管理の在り方をどうするのかを含め、協定を締結する必要がある。	基本計画及び設計業務において整備内容を整理するとともに、多様な主体による持続可能な維持管理体制の構築に向けた検討を進める。
	(自然保護課)自然保護団体と調整を図ってほしい。また、防潮堤エリアでの施設整備にあたっては、県立自然公園条例に係る規制(第2種特別地域)にご留意願いたい。	基本計画及び設計業務において整理していく。

意見交換の場(会議名称)	主な意見の概要	回答の概要(対応状況)
<p>第2回袋井幸浦の丘 プロジェクトワークショップ (R4.10.30) ※11.3現地見学会含む</p>	<p>ワークショップでの説明と現地見学会により防潮堤の整備イメージがつかめた。段床スペースからの眺望は、想像していた以上に良く、期待したい。</p> <p>維持管理も含めた利活用を、地域と共に考えていけるといい。</p> <p>(静岡文化芸術大学)この一年でここまで、このプロジェクトが具体的に議論され、こんなスピードで進捗するとは思っていなかった。今まさに、これまでWSで議論してきた意見が、市の計画として反映され、また実証イベント等で確認しながら進められようとしている。この進め方は実に正しく、理想的である。</p>	<p>期待に応えることが出来るよう、基本計画を整理していく。</p> <p>幸浦の丘プロジェクト2.0の立ち上げを目指して取り組んでいく。</p> <p>利用者目線でそのニーズに応じながら、維持管理や利活用の状況も踏まえて、発展的に、徐々に拡大させていけるプロジェクトとして育てていく。</p>
<p>海プロフェスタ[活用実証事業] (R4.11.3)</p>	<p>久しぶりに海を訪れたが、想像以上にきれいだった。海プロの取組に期待したい。</p> <p>ヒラメの稚魚放流イベントを通じて、浅羽の海でヒラメが釣れることを知った。</p> <p>サーフィンや釣り、スポーツに加え、上空を飛行していたパラモーターなど多様な魅力を感じた。</p> <p>すぐに駐車場が満車になってしまった。臨時駐車場も遠く、不便であった。</p> <p>会場内の案内が少なく、海エリアも離れており、全体が分かりにくかった。</p>	<p>海が持つ価値を守り、活用し、発信する中でビジョンの実現を目指していく。</p> <p>互恵関係をしっかりと生み出しながら多様な主体と連携していく。</p> <p>多様な主体とも連携し、まちの魅力の発信に積極的に取り組んでいく。</p> <p>イベント内容や開催日の工夫など、運用面も含めて対応していく。</p> <p>一体感を醸成する施設配置や意匠などについて基本計画において検討する。</p>

3 海プロフェスタ“ワクワク”創出イベント[利活用実証]の概要

開催日時 令和4年11月3日(木・祝) 9:00~14:00

場 所 同笠海岸、浅羽体育センター

来場者数 約2,500人

実施目的 海のにぎわい創出プロジェクトの周知啓発と利活用の実証

意見聴取 アンケートスタンプラリーなどを通じて、利用者のリアルな意見を収集
※集計・分析中(実証の結果は、各エリアの基本計画に反映していく)

